

Wish

Vol. 37
2012年5月号

CONTENTS

特集

2-9 第10回ユニセフのつどい
まるごとレポート

10 活動のピックアップ

11 活動ファイル

12 お知らせ

「子ども未来プロジェクト」をスタート
— 関連記事 10ページ



午後の部。神戸市立住吉小学校合唱部の美しい歌声で始まり、リレートークでは、「私たちにできること」一歩踏み出すことについて考えました。フィナーレは、山北さんたちの迫力あるアフリカの太鼓演奏が会場を包み込みました。最後は、友情出演の颯爽ジャパンとボランティアチームのよきこい。東日本大震災で被災された方への思いを込め、「しあわせ運べるように」を踊る輪が会場全体に広がりました。10周年の節目となる今回は、共に明日への一歩を踏み出すことができ、寄り添い合うことの確かさを感じながら終わりました。

午前の部。オープニングは、神戸市立科学技術高校の生徒によるプレゼンテーション「軌跡のアーカイブ」。続いて、ユニセフ東京事務所平林国彦さんの基調講演。募金贈呈式では、団体や企業の代表者から温かい言葉をいただきました。昼食タイム。バルーンアートに興じる子どもたちの笑顔が満開。会場に並んだブースでは、東日本グッズや支援団体の紹介、商品販売する人たちの交流がありました。

3

第10回ユニセフのつどい まるごとレポート

ブースとパフォーマンス Booth & Performance

世界の子どもたちへ
東日本の被災されたみなさんへ
200人を超える参加者と共に



Voices

参加団体

たくさんの方々にご参加いただきました。

1 兵庫県子ども会連合会

子どもの健全育成に寄与する団体
<http://www1.odn.ne.jp/~aar16910/>

2 国際居住研究会 (ソルト学生支部)

フィリピンに暮らす人々、特に子ども、女性への支援を行う団体
<http://kyojyuku1997.giving.officelive.com/default.aspx>

3 NPO法人 アクセス

フィリピンと日本で貧困問題の解決に向けて活動する団体
<http://www.page.sannet.ne.jp/acce/>

4 CHA

地雷被がい者やポリオによる女性の障がい者が洋裁技術を習得するためのNGO
<http://www3.online.com.kh/users/wthanchashop/>

5 NPO法人 ルワンダの教育を考える会

教育支援事業を通じてルワンダの平和に寄与する団体
<http://www.rwanda-npo.org/>

6 日本ルワンダ学生会議

東アフリカ・ルワンダの大学生との学術・文化交流を通し相互理解を深めることを目的とした団体
<http://jp-rw.jimdo.com/>

7 ガーナ支援交流協会

ガーナでの教育、医療、保健衛生、環境改善、農業、収入向上支援や日本でのフェアトレードを行う団体

8 賀川記念館

賀川豊彦の働きと志を引き継ぐ地域コミュニティセンター
<http://core100.net>

9 NPO法人 颯爽JAPAN

踊りという、誰にでもできる表現を通して自己開放を誘導することにより、信頼に満ちたコミュニティづくりを実現する団体
<http://sasso.info/>

10 神戸市立科学技術高校

高校生によるデザイン選手権2011で「軌跡のアーカイブ」第3位受賞
<http://www.tuad.ac.jp/hidechamp/about/index.html>

11 神戸市立住吉小学校 合唱部

NHK全国学校音楽コンクールでは、4年連続全国大会に出場し、2011年、全国3位である銅賞を受賞
http://www2.kobe-c.ed.jp/smy-es/?page_id=83

12 山北紀彦

アフリカン太鼓奏者。パーカッションユニット「NDANA」メンバー
<http://h-maneki.net/yamakita/>





秦 正雄

兵庫県ユニセフ協会専務理事
(コープこうべ常務理事)

1979年の「国際児童年」にICA（国際協同組合連盟）の女性委員会から、全国の生協に募金活動協力への呼びかけがあり、ICAを通じて国際協力の活動がスタートしたんです。瀬神戸生協（現コープこうべ）でもアフリカの子どもたちに「バケツ一杯の水を送ろう」のキャンペーンを行いました。その時、日本ユニセフ協会から募金事務局を委嘱されました。募金活動は、グループ購入の組合員さん宅を中心に50万個のファミリーボックス（紙製の組立式募金箱）を配布。店頭にも募金箱を置き、街頭募金にも取り組みました。その結果、約3万3千件、総額440万円の募金を寄せていただきました。活動の中心はお母さんたちです。



1982年当時の活動の様子

平和があって よりよいくらしがある
コープこうべと
兵庫県ユニセフ協会
今から、30年前。初めてのユニセフの募金活動が瀬神戸生活協同組合（現コープこうべ）の組合員さんの手で行われました。現在、兵庫県ユニセフ協会の専務理事であり、コープこうべ常務理事の秦正雄さんに、当時から今までのお話と、これからの展望についてお聞きしました。



た。未来を背負っていく子どもたちに安全な食べ物であったり、安全な地域社会であったり、安全安心に暮らせる日本や世界をつくりたいと、ひしひしと感じていたのではないのでしょうか。そうやって、ユニセフ活動もくらしの助け合い活動も、瀬神戸生協での取り組みをきっかけに、全国の生協へと広がっていききました。実は、コープこうべには「平和の誓い」といつの間にかあるのです。一つは、「平和」ということを次世代へつないでいくのが大人の役目。二つ目は、世界の人人々と平和

についての交流や平和について語り合う。これが、コープこうべの基軸なんですね。コープこうべでは他にも（公財）PHD協会やCODE（海外災害援助市民センター）といった団体への協力もしています。世界の自然災害や紛争が起これば、結局は子どもとか高齢者とか、貧困などによる経済的・社会的弱者の生活が厳しい局面になるんですね。コープこうべの平和活動は、人間のくらしが豊かになっていく、地域社会が豊かになっていく、協力して、共助の理念を持って豊かにしてこそ平和が訪れる、そう考えています。そのため学習と教育活動も大切に、こつこつ積み上げていく。それによって人々の意識というか、生活行動を変えていくことが、大事じゃないかと思うんです。

この10年でユニセフ活動は多くのボランティア、支援してくださる方のおかげで広がり、たくさんの方の出会いが財産になりました。今後の課題は、ユニセフの活動を兵庫県内に広げていくことが一つです。兵庫県は阪神淡路大震災でも世界から支援をいただいたわけですから、東日本大震災の被災地や世界の厳しい環境に置かれている子どもたち、お母さんたちを応援していかねばなりません。それには、ボランティアの輪を広げましょう。働いている人、学生さん、いろんな人にユニセフに関心をもって参加してほしいです。そういう意味では情報発信や交流の拠点を県内に10カ所ぐらい持たなくてはと思います。最後に、「平和があって よりよいくらしがある」。

参考：コープこうべ 平和のちかい（一部抜粋）
過去に現在の生活の中から平和を見つめ、次世代に「平和の尊さ」を伝えましょう。地球的視野で、世界の人人々と文化やくらしの相互理解を深めましょう。



東郷 良尚

公益財団法人
日本ユニセフ協会副会長

今年も多くの学校、団体、個人の方からたくさん募金をお預かりしました。学校や職場、生協組合への呼びかけ、また商品代金の一部がユニセフ募金になったことなど、各団体から活動紹介をしていただきました。贈呈式のと、日本ユニセフ協会副会長の東郷良尚さんよりご挨拶があり、募金贈呈式に来ていただいた皆さま方への丁寧なお礼の言葉、竹村会長への謝辞、最後に、兵庫県ユニセフ協会への温かく力強いエールの言葉をいただきました。



募金贈呈式参加団体

- | | | |
|-----------|------------|---------------|
| 伊藤ハム株式会社 | コープこうべ | コープこうべ定時職員協議会 |
| 神戸市立鷹取中学校 | コープこうべ労働組合 | |

これまでの10年 そしてこれから



竹本 成徳

兵庫県ユニセフ協会会長

本日は、アフリカの太鼓とよきこいのパフォーマンスで幸せを運んでいただき、ありがとうございました。会場にいる皆さま全員で盛大なつどいにしていただき感謝しています。

17年前、阪神淡路大震災の時（当時コープこうべ組合長、今ここにいるコープこうべ生活文化センターの体育館には284人のご遺体を安置していただきました。その時、丁寧に葬ることに努めました。今回の東日本大震災にも阪神淡路大震災の経験を活かして、心を寄せて支援されている皆さんです。しかし、むしろ今から、本当の苦しみが始まります。人生を生きていく中でいくつも越えていかなければならない悲しみが出てきます。そんな時こそ、声をかけ合って共に歩いていきましょう。

1979年、国連が、国際児童年を決定しました。戦後、15年間、日本の物の今まで10年間やってこられたことに感激しています。皆さんのお蔭です。力を合わせていこう、というのがユニセフの活動だと思えます。皆さんは、自分の暮らしをシェアして、ボランティア活動をしています。学ぶこと、知ることから私たちの行動は始まります。これから、皆さんと一緒に、もつともつと夢をみながらやっていこうではないでしょうか。本日は、本当にありがとうございました。

コープこうべ (瀬神戸生活協同組合)と ユニセフ活動のあゆみ

<主にICA(国際協同組合連盟)を通じて>

1979年 国際児童年 「世界の子どもたちにきれいな水を」キャンペーンスタート

<主にユニセフ(国連児童基金)を通じて>

1982年 「バケツ一杯の水を送ろう」ユニセフ募金の呼びかけ。日本ユニセフ協会から「ユニセフ募金兵庫事務局」を委嘱される。

2002年 コープこうべの支援により「日本ユニセフ協会兵庫県支部」設立

2011年 日本ユニセフ協会協定地域組織「兵庫県ユニセフ協会」に名称変更

活動を兵庫県内に広げていくことが一つです。兵庫県は阪神淡路大震災でも世界から支援をいただいたわけですから、東日本大震災の被災地や世界の厳しい環境に置かれている子どもたち、お母さんたちを応援していかねばなりません。それには、ボランティアの輪を広げましょう。働いている人、学生さん、いろんな人にユニセフに関心をもって参加してほしいです。そういう意味では情報発信や交流の拠点を県内に10カ所ぐらい持たなくてはと思います。最後に、「平和があって よりよいくらしがある」。

Activity File
活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴 2012年1月～2012年4月

地域活動

地域の活動に参加し、主にカードやグッズの頒布をしました。ご協力ありがとうございました。

2/12(日)	ユニセフカップ2012神戸ララン チャリティ・ウォーク
2/26(日)	コープファミリーフェスタ
3/4(日)	コープ宝塚フェスタ
3/10(土)	祭 in すみよし
3/11(日)	神戸国際交流フェスタ
3/17(土)	ユニセフのつどい
3/25(日)	ふれあいまつり in 塚口
4/8(日)	ユニセフカップ2012芦屋国際ファンラン
4/28(土)	ボランティア入門講座



▲入門講座での学習風景

◀世界手洗の日(10月15日)につくられた手洗いダンスの披露

神戸ラランチャリティ・ウォーク

～東日本大震災復興支援 戦争、災害、貧困に苦しむ子どもたちに愛の手を～



神戸ラランチャリティ・ウォークは、2008年から「ユニセフカップ 神戸バレンタイン・ララン」と同時開催され、ゴール後に一人100円をユニセフ支援金としていただいています。

スタート地点は14kmコースの住吉と4kmコースの神戸空港、ゴールはともにポートアイランド市民広場。

今年の厳しい寒さの中にあっては、比較的暖かい一日、ベビーカーを押しながら歩く家族づれ、体調をいたわり合いながら仲良く歩く老夫婦、ゴール受付より先に募金はどこですかと申し出くださる方など、たくさんの愛と出会えた一日でした。

国井修氏 講演会 (要旨)

東日本大震災とソマリアの飢饉から学んだこと

日本そして世界の大災害に
我々は何をすべきか

2月13日(月)
日本ユニセフ協会にて



©UNICEF Somalia2011 Morooka

国井 修
ユニセフ・ソマリア事務所 保健・栄養支援事業部長(2011年3月、東日本大震災を受け、緊急帰国。5月下旬まで日本ユニセフ協会緊急支援本部・宮城フィールドマネージャーを務める)

ハザード(災害)が人々の生活や心理に与える影響と緊急事態に陥った時のメカニズムについて考えていきたい。今回の被害が大きくなった要因としては、津波について想定していたこと、想定外だったこと、高齢者が多かったことなどがある。それが被害の大きさとどう関連づけられるかを考える。さらに、震災直後の避難所での劣悪な衛生状況や地域文化性(東北の人は我慢強い)などは、その後の生活環境の変化に対応するうえで難しい点にもなった。そんな中で日本ユニセフ協会は、緊急時、続いて中長期の支援活動のための調査を行い、行政や関係機関との連携を図っていった。その上で、ユニセフがすべき母子保健、学校再開、子どもたちの心のケアを進めていった。

世界で起こる緊急支援の場合、国連機関には各分野専門のマネージャーがいて、それをつなぐチームリーダーがいる。そこで地元のNGOとの交渉や連携が的確に行われる。すなわち、必要な

支援が必要な場所に迅速に届けられるシステムになっている。今回の東日本では、それが十分にうまくいったとは言えない。

ソマリアでは2011年7月からの干ばつが続き、食糧飢饉となる。すぐに子どもたちは栄養不良になり、弱った体はマラリアや破傷風にかかり、肺炎を引き起こし、亡くなっていく。国内の情勢が悪いために医薬品や栄養補助食品などが速やかに届かない。国連職員は防弾チョッキを着け、医療の必要な地域へ出かけて行く。2012年、干ばつは脱したが、子どもたちの命はまだ危急を要する状況である。ワクチンがあれば助かる命がある。今すぐにも支援が必要である。

ソマリアの飢饉は他岸の事ではない、想定外のこともない。日本でも江戸時代には実際に何度も飢饉が起こりたくさんの命が亡くなっている。

私たちは、今こそ、それに備える必要がある。(文責:事務局)

Pick Up Topic
活動のピックアップ

子ども未来プロジェクト2012

報告会
福島の子どもたち
応援キャンプ

2月25日、コープこうべ生活文化センターで、畿央大学の学生たちと福島の子どもたちとの交流キャンプの報告会が行われました。



子ども未来プロジェクト2012とは
東日本大震災で困難な状況に置かれている子どもたちを応援するプロジェクト

キャンプ開催のきっかけ

今回の計画は、奈良県にあります畿央大学の堀内美由紀講師が福島の二本松に住む友人を訪ねて行ったことから始まりました。そこで耳にした「1時間たったら家に入りなさい」という言葉。放射能を心配する母親が外で遊ぶ子供にかけた言葉でした。放射能の心配をせずに子どもたちがリラックスして遊べる、それによってお母さんもリラックスできるいいなあ、そんな堀内先生の思いは、大学の先生方の協力の輪へとつながり、学校を動かし、一大プロジェクトへ発展していきました。

キャンプのデザイン

いろいろなグループが被災地の子どもたちとキャンプをしている中、畿央大学ではどんなキャンプをデザインするか。被災地の子どもの事を常々気にかけておられた某先生の提案で「マンツーマン」スタイルのキャンプに決定しました。

震災、放射能、避難生活と環境が悪化し、ストレスにさらされている子どもたちに対し、「となりのトトロ」に出てくるトトロの役割を大人でもない子供でもない学生なら担うことができるんじゃないかと考えたそうです。

キャンプのようす

1回目は、昨年8月宇都宮市冒険活動センターで行われた3泊4日の「のびのびキャンプ2011」。小学4年～中学2年までの29人、畿央大学総勢46人。マンツーマンで行うには、子どもたちの人数に対し、1.5倍から2倍のスタッフが必要だそうです。

子どもたちがのびのびと活動ができるようにと、子どもと学生がペアを組み、4日間寝食はもとより、お風呂も一緒に入ったそうです。時間とともに子どもたちの表情が明るくなり、自分たちも嬉しくなると話してくれていました。

2回目は、被災地である福島県で1月に行われた1泊2日の「ひらそるウィンターキャンプ※」。

キャンプ終了後、学生さんたちは仮設住宅を訪問。「今日のような場を作ってくれたことで私たちは前を向いて進んでいけるんです。ありがとうございました。」という言葉を見た時、私たちが何かをしたい何かをするんだという思いよりも、苦しみや辛さや楽しみを一緒に感じながら過ごすことが大切と感じたそうです。



報告会に参加して

「思いやるころ」「次への一歩」が、どれほど大切で大きな相乗効果を生むかを実感した報告会でした。

ひとりの先生の友人を思いやるころと次への一歩が支援の輪を広げ、参加した学生さんは被災地の皆さんの心に寄り添うことの大切さを感じ、「キャンプがあればまた参加したい」と話していました。学生さんたちの次への一歩の始まりです。

先生の「学生たちはこのキャンプで大きく成長しました。成長した子どもたちを見てやってください」という言葉がとても印象的でした。

※ ひらそる
福島県二本松市のボランティアグループ



のびのびキャンプでの子どもたち

ユニセフ募金 *Donations For Unicef*

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座	手数料
アフリカ干ばつ	アフリカ干ばつ K1-280兵庫	00190-5-31000	免除
東日本大震災	東日本大震災 K1-280兵庫	00160-2-372895	ご負担 下さい
ハイチ地震	ハイチ K1-280兵庫	00190-5-31000	免除
自然災害	自然災害 K1-280兵庫	00190-5-31000	免除
人道危機	人道危機 K1-280兵庫	00190-5-31000	免除

*共通口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

あなたもボランティア! *Volunteer*

ユニセフという言葉は知っているけれど、どんな活動をしているんだろう。世界の子どもたちのために、私にできることはなんだろう。「できる人が できることを できる時に」活動しています。お気軽にご連絡ください。
(事務局: 078-435-1605)

Wish ユニセフ兵庫ニュース

vol. 37
2012年5月号

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2012年(平成24年)5月発行

発行: 兵庫県ユニセフ協会

住所: 〒658-0081

神戸市東灘区田中町5-3-18

コープこうべ生活文化センター4F

電話: 078-435-1605

FAX: 078-451-9830

(お問い合わせは平日の10:00~16:00)

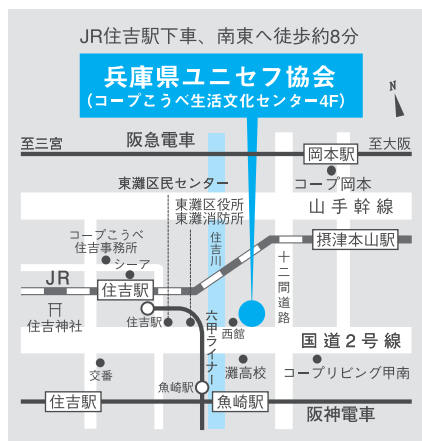
●最新の情報はホームページで

<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫県ユニセフ協会

検索

●兵庫県ユニセフ協会への案内図



Join Us 主催イベント

ボランティア入門講座

①4/28(土) ②5/19(土) ③6/30(土) 13:00~14:00

会場: コープこうべ生活文化センター

いずれも、ボランティア連絡会の前半約1時間を利用して、ユニセフについて基礎から学習します。ユニセフ活動に関心のある方、一緒に学習しませんか。

講演会「アフリカから学ぶ」

~予測不可能な時代を生き抜くために~

日時: 6月9日(土) 13:30~15:30

会場: コープこうべ生活文化センター

講師: 大津司郎さん

30年以上アフリカを追求し続けているジャーナリスト大津司郎さんにお話しいただきます。



生活文化センター30周年記念「七夕まつり」

日時: 7月7日(土) 10:00-16:00

会場: コープこうべ生活文化センター1Fロビー他
ユニセフバザーを行います。

NEWS お知らせ

ASIAN4 FOOTBALL U-15 CHAMPIONSHIP 2012 U-15 日本淡路大会

日時: 6月30日(土)~7月1日(日)

会場: 兵庫県立淡路島佐野運動公園

BOOTH 出展参加

7月8日、コープこうべの各地域で行われます「平和のつどい」ではユニセフカード、ギフトの頒布を予定しています。皆さまのお越しをお待ちしています。

GOODS グッズ

ユニセフ・カードとギフト 春・夏2012



素敵なカードやはがき、おしゃれな雑貨、かわいい子ども用ギフトがいっぱいのカタログ。折々のプレゼント、季節のご挨拶などいろいろな場面でお使いいただけます。製品代金の約50%がユニセフ活動資金として世界の子どもたちのために役立てられます。是非お手にとってご覧ください。カタログ送付、詳細をお知りになりたい方は兵庫県ユニセフ協会までご連絡ください。

ユニセフ七夕ネットワークセミナー

「成長したい児童生徒にとってのESD」

日時: 7月14日(土) 13:00-16:30

会場: 穴吹ホール(香川県高松市)

ユニセフ国際教育セミナー

日時: 8月4日(土) 13:00-16:00

会場: ビュータワー住吉館ギャラリー

JR住吉駅から南東へ3分

子どもたちの3・11

ユニセフ東日本大震災報告写真展

日時: 8月13日(月)~26日(日)

8:45-17:30(ただし、土、日は10:00-17:30)

会場: 神戸市役所市民ギャラリー(1号館2F)

地球のステージ

日時: 8月18日(土)

会場: コープこうべ生活文化センター

講演会「自然と共に生きるマサイ族」~マサイ族のジャクソンさんをお迎えして~

日時: 10月21日(日)

会場: コープこうべ生活文化センター2Fホール

ナビゲーター: 早川千晶さん

第12回模擬国連会議関西大会

日時: 8月21日(火)~8月23日(木)

会場: 神戸国際会議場

オリジナル缶バッジ



兵庫県ユニセフ協会設立10周年の感謝の心を込めて、マグネットタイプの缶バッジを作りました。磁力が強く、便利にご利用いただけます。さまざまな出展のときに持っていきますので、その折にお求めいただけます。よろしくお祈りいたします。